

1. 評価結果概要表

作成日

平成 20年 10月 1日

【評価実施概要】

事業所番号	4091600207		
法人名	社会福祉法人 ひじり会		
事業所名	グループホーム さくら館		
所在地	久留米市田主丸町豊城1751 〒 839-1234 (電話) 0943-72-2596		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成20年9月24日	評定確定日	平成20年10月31日

【情報提供票より】(平成 20年 8月 22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年 10月 1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	19人	常勤 18人	非常勤 1人 常勤換算 17.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1階建ての～	1階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(100,000円)	無		
保証金の有無(一時金を含む)	有(円)	有の場合償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日あたり		1,300円程度	

(4) 利用者の概要(8月 22日現在)

登録人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	3名	要介護2	7名		
要介護3	7名	要介護4	1名		
要介護5	0名				
要支援1	名	要支援2	名		
年齢	平均 83.5歳	最低	77歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田主丸中央病院
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域密着型となってから開設されたホームである。利用者や職員が近隣地域出身者であったため、家族も含め互いに「顔見知り」の関係であり、スムーズな利用へと繋がっている。リビングから続くウッドデッキの先には、近隣地域出身者である利用者にとって、馴染み親しんできた情景が広がっており、精神的にも落ち着き安心できる場となっている。日常のかかわりを通じて把握した入居者本人の思い等はセンター方式の様式へ記入し、「願いたい事」として利用者一人ひとりの希望・要望を聞き取り、カンファレンスにて検討し実現に向けて支援するなど、個別支援へのきめ細かな取組みがある。様々な機会を捉えて、全職員での真摯な取組みが職員の自信へと繋がっており、今後、更なる質の向上に向けて期待できる事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価結果について運営推進会議時に報告を行い、職員と改善について話し合うなどの取組みがある。この過程で、防火訓練への取組み、職員交代時の引継期間の設定、重度化や終末期についての本人の意思確認の実施などの成果が見られる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の外部評価受審にあたり、勉強会時に話し合い自己評価を行うなど、職員全員で自己評価に取り組んでいる。
重点項目	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、行政担当職員、家族代表などの参加により、2ヵ月に1度の運営推進会議の開催がある。利用者の状況や行事等の報告、認知症ケアについての説明、行政担当者からの法的内容の補足説明、家族から行政に対する意見が出されたり、参加メンバーから様々な提案を受けるなど、質の向上に向けた活発な意見交換の場となっている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9) 家族面会時の声かけ、2ヵ月毎の“たより”の送付、その都度の電話連絡などを通じて、説明や報告がある。“たより”には、担当職員から利用者一人ひとりの家族に宛てたメッセージが記されるなど、一人ひとりにあわせた報告を通じて家族の思いや意見の表出に努めている。寄せられた意見や思いなどは、カンファレンスにて話し合うなどの取組みがある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入しており、敬老会や道路清掃など利用者・職員共々の参加がある。また、地区行事のバザーに出品したり、行事見学、自治会総会の場所提供等、利用者と地域住民との交流の機会を積極的に捉えての取組みがある。

2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	職員各々の思いを出し合い、皆で検討しなが ら、独自の理念を作り上げている。住みなれた 地域のなかで尊厳のある生活を送ることができ るような取り組みがある。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	リビング、事務所等に理念が掲示されてお り、違和感なく自然と目に入る工夫がある。勉 強会を利用して理念の内容を再確認しあうな ど、理念の共有と実践に向けた取り組みがある。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流すること に努めている	自治会に加入しており、敬老会や道路清掃な ど、利用者・職員共々の参加がある。また、地 区行事のバザーに出品したり、行事見学、自治 会総会の場所提供等、利用者と地域住民との交 流の機会を積極的に捉えての取り組みがある。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	前回の外部評価結果について運営推進会議時 に報告を行い、勉強会時に職員と改善につ いて協議するなどの取り組みがある。この過程 で、防火訓練への取り組み、職員交代時の引 継期間の設定、看取りについての意思確認 の実施などの成果が見られる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等につ いて報告や話し合いを行い、そこでの意見 をサービス向上に活かしている	利用者の状況や行事等の報告、行政担当者 からの法的内容の補足説明、家族から行政 に対する意見が出されたり、参加メンバ ーからの提案を受けるなど、質の向上に 向けた活発な意見交換の場となっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センター職員及び行政担当職員の参加がある。新規入居申し込みの利用者に対して、行政担当者からの意見を取り入れるなど、市町村との密な連携が図られている。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	ホーム内の勉強会にて、制度に関して職員の理解を図る取り組みがある。入居者家族に対しての説明等の働きかけはこれからである。		運営推進会議や家族会等を利用して情報提供の機会を設け、制度の説明や窓口の紹介を繰り返すなどの取り組みを期待します。
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族面会時の声かけ、2ヵ月毎の“たより”の送付、その都度の電話連絡などを通じて、説明や報告がある。“たより”には、担当職員から利用者一人ひとりの家族に宛てたメッセージが記されるなど、利用者にあわせた報告がある。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時の声かけや家族会、たより等を通じて、家族の思いや意見の表出に努めている。日々のかかわりや利用者の「願い事叶え」を通じて、利用者の思いや希望を把握し、カフェインで話しあうなどの取り組みがある。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動等の際は引継期間を設け、利用者一人ひとりに紹介し、利用者と一緒に過ごしてもらうなど、馴染みの関係づくりへの取り組みがある。また、余裕を持った職員体制、リフレッシュ休暇を定め、産前産後休暇などの各種休暇を取得しやすい環境づくりに努めている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	<p>人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員採用に関して、年齢や性別、経験などによる制限は何ら行われていない。思いやりを持って利用者と同じ目線で接することができる人など、人となりを重視しての雇用である。職員の適性に応じて、各種委員を任命するなどの配慮がある。また、同じ内容の研修会に継続参加することにより専門性を高めてもらうなどの取り組みがある。</p>		
12	20 追加	<p>人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>法人本部での職員研修において、人権教育・啓発活動についての取り組みがある。ホームとしての人権教育・啓発活動等への取り組みはこれからである。</p>		<p>職員の意識を喚起する意味において、行政主催の講演会等に参加したり、ホーム勉強会で取りあげるなど、定期的・継続的な人権教育・啓発活動への取り組みを期待します。</p>
13 (10)	21 (19)	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>各種研修案内を掲示し、希望を募ったり、職員の資質を見極めて指名するなど、研修参加の機会を確保している。また、研修参加後は報告会を行い、知識の共有に努めている。関連する内容の研修会に継続参加することにより専門性を高めてもらうなどの取り組みがある。</p>		
14 (11)	22 (20)	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>事業者協議会主催の勉強会に参加し、情報交換やディスカッション等が行われている。職員レベルでの実践的な交流や連携は今後の課題である。</p>		<p>同じ思いを持つ他のグループホームとの交流・連携を実践していただき、職員レベルでの見学や相互研修、情報交換等の機会の確保に努め、質の向上に向けての取り組みを期待します。</p>

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の体験利用を通じて、馴染みの関係を構築するための取り組みがある。利用者や職員が近隣地域出身であったため、家族も含め互いに顔見知りの関係であり、スムーズな利用へ繋がっている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事全般におけるコツ、生花のいけ方、花や野菜の育て方、忙しいときの礼儀作法を教わるなど、日常のかかわりの中で学び支えあう関係づくりへの取り組みがある。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のかかわりを通じて把握した入居者本人の思い等はセンター方式の様式への記入がある。また、「願い事叶え」として利用者一人ひとりの希望・要望を聞き取り、カンファレンスにて検討するなどの取り組みがある。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族との面談や日常のかかわりを通じて本人・家族の思いや希望等を把握している。担当職員が原案を作成し、毎月の評価結果を基にカンファレンスにて協議し、介護計画へ反映させるなどの取り組みがある。		
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	担当職員による毎月の評価結果をもとに、3ヵ月毎及び状態変化時のモニタリング、カンファレンスでの協議、見直しが行われている。毎月のカンファレンスにおいて全利用者・家族の意向の確認までは行われていない。		利用者の変化のあるなしにかかわらず、月に1度のカンファレンスを利用して、全利用者に対する職員の気づきを取りまとめ、全利用者についての情報交換や周知などの機会の確保を期待します。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多 機能性を活かした柔軟な支援 をしている	散歩中の自宅見学、「願い事 叶え」として利用者の希望に そった個別支援、今までのか かりつけ医の受診支援、入院 中の衣類の洗濯支援など、柔 軟な対応がある。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切 にし、納得が得られたかかり つけ医と事業所の関係を築き ながら、適切な医療を受けら れるように支援している	利用者の今までのかかりつけ 医を基本として、ホーム協力 病院や専門病院との連携が 図られている。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針 の共有 重度化した場合や終末期の あり方について、できるだけ 早い段階から本人や家族等 ならびにかかりつけ医等と 繰り返し話し合い、全員で 方針を共有している	昨年度、ホームで看取った 経験を基に、勉強会を重ね マニュアルを作成するなど ホームとしての体制を整 えている。契約時に家族へ 説明を行い、看取りにつ いての同意を得るととも に、センター方式を使用 しての本人の意向の確認 に努めている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	利用者の生活歴を把握し、利用者をよく観察 したうえでのさりげない対応や視線をあわせて の傾聴など、利用者を尊重した対応が見受けら れた。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	事業所としての基本的な流れはあるものの、 食事のペース、入浴のタイミングやかかる時 間、日中の過ごし方など、利用者一人ひとりの ペースを尊重した対応が見受けられた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	食事の下ごしらえ、下膳やテーブル拭き、お やつづくりなど、職員と利用者ができることを 一緒に協力しながら行っている。魚を焼く匂い や出汁の匂い、調理に伴う音など五感に働きか け、食事が楽しみとなるような取組みがある。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミン グに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	毎日の入浴が可能であり、利用者の希望に応 じて柔軟な対応が行われている。現在は午後か ら夕方までの入浴時間の希望であるが、その都 度の希望によるシャワー浴の対応があり、希望 があれば夜間入浴への支援も図る予定である。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	日常の中で利用者の出来る事を見つけてのそ の都度のかかわり、「願い事叶え」として利用 者の希望の実現に向けての支援、利用者の趣味 の継続支援等が行われている。利用者一人ひと りの全体像を把握したうえで、日々の張り合い や生きがいとなるような取り組みがある。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	ホーム玄関先での沐浴を兼ねたティータイム の実施、日々の食材の買い出し、その都度の散 歩やドライブなど、戸外に出ることを意識して の支援がある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	日中は開錠しており、自由に出入りできる。 職員は利用者の様子をよく観察しており、さり げない声かけや一緒に出かけるなどの対応があ る。また、職員の体制上やむを得ず施錠する ときの同意を家族から得るなど、利用者の自由 な暮らしを支える支援と安全面への配慮がある。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	年2回の消防署立会いの防災訓練、及び、毎 月の自主訓練が実施されている。昨年の外部評 価の結果を受けて、運営推進会議等で防災訓練 への地域住民の参加を呼びかけるなどの取組み がある。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとりの 状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	利用者の嗜好調査や希望を基に1週間分の献 立を職員が作成し、作成された献立は、法人本 部の管理栄養士が確認している。利用者の食習 慣、治療食やキザミ等の食事形態への対応があ る。食事摂取量は毎回記録し、必要な利用者 のみ水分摂取量を記録するなどの支援がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	リビングと食堂のスペースが独立した設計で あり、共有空間は広く、ゆったりと過ごすこ とができる。ホームは和を基調とした造りであ り、リビングから続くウッドデッキの先には心 和ませる情景が広がり、季節感を直接五感で感 じることが出来る。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	各居室には、家具やテレビ、仏壇、家族の写 真、趣味の品など、馴染みの物が持ち込まれて おり、居心地よく過ごすための居室づくりへの 支援が行われている。		

 は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号